

サポート通信



第17回千代田まちづくりサポート活動成果発表会

ネットワーク化が進む助成グループ



平成30年4月22日(日)、第17回千代田まちづくりサポート公開審査会で助成対象となった13グループ(一般部門11、はじめて部門2)の活動成果発表会が、ちよだプラットフォームスクウェアにて開催された。今回は、発表に加え、普請部門二次審査で耐震に関する再検討を求められていたグループの検討結果報告も行なわれた。

3回の助成が終わり「東京神田神保町映画祭実行委員会」は卒業となる。3年間の活動で、神保町のまちに映画祭が浸透してきた。また、サポート大賞は、「神田プロレス」が前回に引き続き2度目の受賞となった。

今年2年目のPCN秋葉原は、身近なものづくりへの興味関心を高めてもらうため、子どもたちが作成に挑戦する「キラキラ光るペットボトル神輿」で山王祭に参加を目標にするとのこと。普請部門では、昨年11月の二次審査において、耐震に関する判断材料がないとの理由で継続審査となっていた「秋葉原・旧旅館【東館】内ちよだニャンとなるCafe」からの報告があったが、調べると過去に千代田区の簡易な耐震診断を受けていたことがわかり、床下や天井の一部を調査した結果もあわせて上限500万円の助成が受けられることとなった。

また、最初に普請部門の助成を受けた「海老原商店を活かす会」から、活動報告があった。さまざまなまちづくり活動に生かされていることがわかり、さらに他のグループに活用されることが期待される。

協働運営も3年目となった(一社)千代田まちづくりプラットフォームからの提案で、過去の助成グループ「神保町おさんぽ隊」からの活動報告もなされ、発展的に神保町に根付いた活動をされていることがわかり、各グループの励みになったと思われる。

次回、助成対象グループを決定する第18回公開審査会は、来る7月22日(日)、ちよだプラットフォームスクウェアで開催される。まちづくりサポートのされなるネットワークの広がり期待したい。

目次

【第17回助成グループ(発表順)】

【一般部門】

東京神田神保町映画祭 実行委員会 (3回目)	2
文人通りギャラリーカフェ (2回目)	2
神田プロレス (2回目)	3
PCN 秋葉原 ASSEMBLAGE (2回目)	3
神田を面白がる会 (2回目)	4
一般社団法人神田をワインの街にしよの会 (1回目)	4
地域のキーパーソン可視化プロジェクトチーム (1回目)	5
ちよだロケーションサービスをつくる会 (1回目)	5
THEATRE CONERGE (1回目)	6
一般社団法人 協働プラットフォーム (1回目)	6
KANDA MUSEUM (1回目)	7
【はじめて部門】	
ちよとも	7
三崎町 SMILE プロジェクト	8
【普請部門年度報告】	
海老原商店を活かす会	8
【普請部門検討結果報告】	
ちよだニャンとなるCafe	9
審査会委員講評・全体講評	9~11
サポート大賞受賞グループ紹介「神田プロレス」	12
賛助会員一覧	12

審査会委員 紹介

会長	なかじま なおと 中島 直人 東京大学大学院工学系研究科 准教授・博士(工学)
副会長	おくむら げん 奥村 玄 株式会社GENプランニング 代表取締役
委員	かたおか しょうご 片岡 勝吾 麹町五丁目町会 副会長
委員	ごとう よしひさ 後藤 禎久 市井人・斎藤月琴に学ぶ会 会長
委員	あさひな ゆり 朝比奈 ゆり 東京ボランティア・市民活動センター 専門員
委員	ほった あきのぶ 堀田 明信 興産信用金庫 お客様支援部 シニアチーフアドバイザー
委員	おがわ くみこ 小川 久美子 千代田区 富士見出張所長



編集・発行：公益財団法人 まちみらい千代田 まちづくり推進担当

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-21 ちよだプラットフォームスクウェア4階 TEL.03-3233-7556 FAX.03-3233-7557
https://www.mm-chiyoda.or.jp E-mail machisapo@mm-chiyoda.or.jp



今年は年に一回のコンペディションの映画祭。1日目は11月11日に会場は椅子などを制作するコトブキシーティング(株)で開催。2日目は12日に神田明神でグランプリの授賞式と公式参拝をさせて頂いた。

年間を通しての活動は、ずらん祭りに参加して毎月の上映会。社会福祉協議会の後援で、65歳以上の方にかがやき大学映画講座を開く。

また、コンペディションに応募の映画作品をまちの人に審査して頂く「まちのひと審査会」を今年も開催。高齢者総合サポートセンター映画サロンの会場で新たに行った。応募数は146作品。3年目の今年は地元企業の会場でも上映会ができた。社会福祉協議会とのコラボができたこともうれしかった。地域のイベントでは神田カレグラランプリ・マイスター会議でコメディ映画の上映を行った。

メンバーを固めることが課題でしたが、少数精鋭で運営できた。ウェブの更新も定期的にメールの文章をテンプレート化できたので、誰にでも依頼しやすくなった。ほかにも便利なツールを見つ

け、効率もアップした

もう一つの課題、スケジュール・年間計画の見直し、これを強化していきたい。振り返ると、1年目に5万円の助成、2年目、3年目の今年を合わせると100万円の助成を受けた。それがあつての活動でした。またほかのグループの方とのご縁やご協力もあり、皆さまに本当に育てて頂いたと感謝です。

今後も継続する基盤づくりができたと思う。今年は学校と連携して映像によるワークショップを準備している。助成終了後も活動を続けるので、見守って頂けたらありがたい。

3年間、ありがとうございました。

Q: 卒業後の活動資金のめどは?

A: 機材等設備費や宣伝費はかかるので、千代田区文化事業助成へ応募した。赤字にならないやり方を考えた。上映会を毎月やるのは厳しい。インタビューなどで作品の紹介をする。さらに地域の大学とのワークショップを企画。コンペに応募が安定して集まっているので、その収益を維持して活動する。

Q: 地域の理解はどのくらい得られたか?

A: 本の街神保町で、なぜ映画祭なのか問われたが、実は神田は映画発祥の地。そのアピールがまだ充分でないと感じた。

今後も個人として地域に関わっていきたい。



番町、麴町地域には旧住民と新しいマンション住民もいる。その間での交流の機会も少ないので、それを提供するのが活動の第一目的。1年間の活動は「カフェ・アマールフィ」で毎月1回の会を開いている。地域の人を講師に毎回

15人から20人くらいの参加者がいて軌道に乗ってきた。

1月はソーセージを作る会で30代から80代まで年齢層も幅広く参加。グランドピアノもある場所なので2月のランチコンサートではご夫婦での参加や、3月の生け花フラワーアレンジメントには20代の参加者もあった。

計8回のイベントを開催。まちみらい千代田広報紙を見て、飯田橋方面などの遠くからも新規の方やリピーターも増えた。

地道な活動に住民同士の触れ合いが少しずつ生まれて感動している。

今後もまちみらい千代田広報紙については、宣伝に大きな効果があるので活用させて頂きたい。助成終了後も自立して活動し、地域の人に期待され、支持されるように頑張る。

Q: 区内の新旧住民の割合と年齢層は?

A: 半々くらいか。年齢は高齢者と若年層。4分の1は番町以外の外部の人。

Q: 参加者は固定化か? 毎回変わるのか? リピーターはどれくらいか?

A: 会の内容、テーマによって異なる。

Q: イベントの企画は誰が立てるのか? 参加者からもアイデアが出るのか?

A: 参加者の中からも募り、なければ会としてメンバーで考える。

Q: 中心メンバーのご逝去もあったとか。遺志を受け継いでの地道な活動と思うが、気長にやってほしい。参加者同士にもつながりを持ち続ける努力などはどうしているのか?

A: 参加者同士の交流会がある。電子メールやSNSでやりとりしている。



劇団活動をしながら神田でカレーの飲食店店長をしている。子ども向けの参加型お話を幼稚園や古書店など、全国で行っている。2015年に神田プロレスを旗揚げ、毎年、スポーツ祭でプロレスをさせて頂いている。

去年、千代田まちづくりサポート（以下、まちサポ）の助成を受け、神田明神祭務所地下ホールでのプロレスを実現。今年は2回目の「神田明神奉納プロレス&子どもフェスタ」を開催する。子どもたちにプロレスのワークショップを開き、レスラーを参加させて、一緒に遊んだ後でプロレスの試合を観戦、応援する。

子どもたちがさまざまな体験、交流をするイベントを行う。去年の反省から、プロレスは集客できるが、子ども向けの活動をあつくりたいと考えた。ダンスのワークショップ、ゆるキャラとのお話などを企画。また、オクトパシー（第16回助成対象グループ）の記録映画上映会（1950年頃に撮影された神田の七五三の映像）、PCN 秋葉原 ASSEMBLAGE の獅子舞ロボットを動かすプログラミングワークショップ、ドッチビー体験会、さらにアロマせっけん作りなどが開催できた。おかげで活動のバラエティー

が増えた。

神田プロレスをまちの方も知ってくれて、入りきれないほどの盛況。本物のプロレスラーの登場や音楽の生演奏もあり、昨年を上回る盛り上がりだった。来年は神田明神境内での開催が実現できることになった。

Q：強い発信力となったのはなぜか？

A：地域のイベントとして、子どもたちに向けて行った。ほかのグループとコラボしたこと。おかげで区内のすべての学校が初めて全校生徒にチラシを配布してくれた。

Q：神田の書泉グランデがプロレスファンの聖地とは知らず驚いて、ポスターを見た。意外性があり、神田明神の協力を得られたのも、入場無料を通じた信念もすごい。拍手を送りたい。規模が大きくなると全体のマネジメントや当日の運営で、何か問題はないか？

A：まちづくりサポート事務局などの協力あってのこと。俳優座劇場でのノウハウもあるが、何よりも地域のお店の方のご協力にも助けられている。老若男女を問わず楽しめるイベントにして、入場無料を貫けるよう広告・協賛を積極的にお願いしていく。



秋葉原電気街の電子工作室で、電気街からの文化発信と、2020年からプログラミング教育が学校で必修となることを見据えた活動を展開する。まちサポの3年間に、子どもたちに興味を持ってもらえる電子工作教室を実施し、もの作

りで千代田アキバ街を育てる。

こども霞が関見学デー、秋葉原 UDX の夏祭りでキラキラづくり体験、小学生の子どもたちに作品を出品して実演してもらう。スタッフがダウンした時にオクトパシーに助けて頂いた。夏休みには自由研究サポートを実施。240名の子どもたちが来訪し作品を仕上げた。特に休日には多く、対応に追われ、盆踊りなどの出張イベントを断念する。子どもたちが自分で考えた物がすばらしかった。

秋葉原キラキラ化計画の教室では18名の完成作品を秋葉原 UDX に展示。子どもたちのクオリティが上がっていることに驚く。

神田プロレスとの夢のコラボも実現した。神田明神のおみくじの獅子舞を口が開閉するロボットへと子どもたちが組み立てた。宮司さんが喜んでくれて、私たちもうれしかった。

初夏の山王祭に「キラキラ光るペットボトル神輿」を作成中。4月に麴町ワーク・わく・クラブ応援団（第16回助成対象グルー

プ）や番町児童館の皆さんと、区内公立小学校の子どもたちの作品として制作を進める。5月に基板の光る部分を作り、6月の山王祭にその神輿を子どもたちが担ぐ。

来年の展望はシニア向けのプログラミング。世代を超えてプログラミングし、千代田区で実現できると思う。ジャンク・アートにも取り組む。電気街の優良店の廃材を使ってデザインする。これも子どもたちが作った物が売れたと聞いて、私たちも挑戦することにした。

Q：来年3年目以降、サポートが終わってからも、参加費500円で大丈夫なのか？

A：適正な価格で維持したい。指導者を育てる活動も必要で、地域に合わせて行う。

Q：子どもからシニアまで、地域や世代も超えての活動はすごい。何かエピソードは？

A：夏休みの自由研究で出会った子どもたちがプログラミング・コンテストで受賞した。インターネットなどでも親子で交流し、ほかの地域にも友達が増えているそうだ。

Q：買い物ではなく、子どもたち自身が作ることはすばらしい。何か要望はあるか？

A：完成した時の子どもの笑顔を見るのは楽しい。ペットボトル神輿を祭後に廃棄するのは惜しいので展示する場所をお願いしたい。



昨年度の活動から、キッチン付きレンタルスペース「MID STAND TOKYO」が誕生。閉店したそば屋を手作りでリフォームし、保健所に登録した。ここを活用し、「神田」ということに興味のある人に利用してもらう。まちの課題や新しい企画など、おのおの発信するものを持っているのでやって頂く。

第1回のイベントは街歩き、2回は神田の老舗を知る、3回は閉店したバー（地域のキーパーソン可視化プロジェクトチームと連携）で動画を配信。4回が神田駅高架下、5回は神田ニューインフォメーションセンター。6回は「これからの展望」とした。毎月10回の開催で平均50人が参加し、10か月で約5,000人になる。

第1回のイベントは街歩き、2回は神田の老舗を知る、3回は閉店したバー（地域のキーパーソン可視化プロジェクトチームと連携）で動画を配信。4回が神田駅高架下、5回は神田ニューインフォメーションセンター。6回は「これからの展望」とした。毎月10回の開催で平均50人が参加し、10か月で約5,000人になる。

去年は神田祭でもオープンカフェを開催したのでプロモーションになった。子どもたちも参加のワークショップでにぎわう。面白がる会ではむずかしい課題を真剣に行うことをモットーとしている。宅地建物取引士の資格を取得しているので、神田に根付いてやれることをやっていく。このチャレンジ・キッチンとも言える機能を持つレンタルスペースを使って、これから神田に入って

いきたい人をさらに応援したい。

神田とは働く人と暮らす人が交わる場所。人の見える街で、神田らしさとは人情である。

神田のポテンシャルをもっと生かし、私自身ここでよく考えて次の活動を自分なりに行う。

会は一旦休憩し、次のアイデアを出す。

Q：この会の成果をどう次に生かし、記録として残すのか？

A：面白い場所は居酒屋などいろいろあるが、もっと住人と交わりたいという要望があった。そういう要望を受け入れられるような仕組みを作れば良いと思った。

Q：新しい仕組みを考える必要があるのはなぜか？何が足りなかったのか？

A：12回のイベントの中で、テーマがマンネリ化し、さらに飛躍のために考える時間が必要。

Q：貴重なきっかけ作りをしたと思うが、古い住人や周辺の人への感じはどうなのか？最初はマンション住人とのつながりを求めたと思う。難しいテーマだが、連合町会ではパンフレットも作っている。「警察通り社会実験」もある。そういう人々ともつながって、ぜひ地域の活動をしていってほしいと思う。

A：この2年間で神田のネットワークは広がり、特に飲食店とはつながったが、マンションの住人とのつながりを作りたい。



神田に来る人を中心にワイン祭りを開催する活動をしている。ワイン好きが高じた勢いでワイン祭りを開いた。初年度はうまくいって地域の中でも発売。毎年ボランティアが運営していたが疲れてしまった。仕事の後に集まり活動していたので、このままでは持続できないのではと考えた。

基盤を作りたいと思い、まちサポに応募した。これからどうすべきか考え仕組み、構造を作りたい。始まりはJRの神田駅で周辺はあまりきれいな地域ではなく、少し雑然としている。古い飲食店なども多く、女性も足を運びにくい。街の雰囲気を変え、気取らない庶民の神田の風情を残しつつ、人が集まる魅力的な粋なワインの街にしたい。

日本橋や大手町に囲まれて、少し取り残された感じを何とかしたい。地域住民だけでなく神田に来る人も参加するのを特色としている。昨年度も10月にワイン祭りをやったが、今年もそれが中心の活動。準備の実行委員は10人、ボランティアが30人程のアルバイト。10人のスタッフで毎月行っている打ち合わせは、開催2か月前からは毎週行う。助成を受けることで発信力を身につけ、社団法人化した。さらに信頼を受けたい。活動の詳細は、

缶バッジ、ワイングラスに付けるシール、関連グッズを内職などであまりお金をかけずに作り、その分を参加者の会費を安くする。

飲食店の方にも参加を呼びかけ説明会を開く。そのパンフレットやカード、資料なども作っている。助成金はSNS発信の費用、ホームページの制作に使う。飲食店にリピートの客が来るよう、わかりやすく店ごとに紹介。

データを見ながら解析もしていきたい。

今川中学校跡地でワイン作りを始めようとしている。これも助成金のお金で賄う。

Q：旧今川中学校でのワイン作りとは？

A：その学校花壇に5本のぶどうの苗木を植えた。その栽培と収穫をしてワインを作る。住民の方にも手伝ってもらい、神田で農業ができ、オリジナルワインが生まれる。

Q：少し活動を縮小しても基盤を作りが大切との指摘は大事な視点。基盤のポイントは何か？ホームページ以外では何かあるか？改善した事などは？

A：プリンターなどの備品を購入した。持続するためにも善意に頼らず、ボランティアに交通費や食事を支給する。

7 千代田区を面白くしている街のキーパーソンのインタビュー動画制作プロジェクト (地域のキーパーソン可視化プロジェクトチーム) (一般部門・1回目)



人の顔の表情を映してインタビュー動画にするプロジェクト。お酒を飲んでいる時など、表情は柔らかくなり、その人らしさも出る。

そのほろ酔い状態でのインタビューをする。時間は40分から1時間くらいで、街のキーパーソンのインタビュー動画をライブ配信し、SNSで広く区外の人にも知ってもらおう。5時間かけて5本作ったので、ご覧いただきたい。

〈しばらく、会場で動画放映〉

①ちよだいちば(代表理事)大塚洋一郎氏。②日本酒バー神七(オーナー)竹迫七恵氏。③コマンドN(代表)中村政人氏。④TOKYO PRODUCERS HOUSE 高橋渚氏。⑤江戸文化研究家森田暁氏。2017年10月から2018年4月に収録。

〈以下、活動成果報告書より抜粋〉

ちよだいちば、飲食店、コワーキングスペース、アートセンター、東京考古学などでユニークな活動をしている人を自然会話形式でインタビューする。配信された動画は即座にアーカイブとなり、フェイスブックで、ほかの人にシェアされる。

SNSを使っていない人には届かないので、ゲストの拡散力に依存する。しかしおもしろい人がいることはアピールできた。配

信動画は1万人に届き、魅力的な人の生の声を聞いて頂けたと思っている。

Q:聞き手として心がけたことはあるか?また、シナリオはあったのか?相手の承諾は?

A:自然な会話を心がけ、質疑応答にならないように気をつけた。事前に相手を知り、おおよその質問は伝え、共有していた。

Q:実施したインタビュー聞き手のノウハウが共有できればと思うが、どうか?

A:今年はシナリオ編集無しで、会話だけでどれだけやれるか実験の試みをした。

Q:次回応募するなら違う視点でやるのか?そのまま撮りっぱなしなのか?どうまとめるかは考えているのか?

A:紙や画像でテキストにしている。1時間で2万文字くらいだが、冊子までは作っていない。今後小冊子にして配布したい。司会者を代えることも考えていき、活動は続けたい。交流会を公開収録してぜひ地域の人に出演してほしい。

Q:今後登場する街のキーパーソンはどういう人を考えているか?千代田区らしい人か?

A:キャラクターのおもしろい人、それを探し出すのが大変。紹介や勧誘をお待ちしている。

8 ちよだの魅力を映像によって世界へ紹介する (千代田区内の観光名所、景観資源などを映像作品で紹介し町の魅力を世界へ伝えてゆく) (ちよだロケーションサービスをつくる会) (一般部門・1回目)



区内の景観資源を映像に収め、アーカイブ化する。それを目標に映像作家によるプロモーション映像作品を制作。学生など若手クリエイターの育成をし、ワークショップも開く。それを制作する特設ウェブサイトでも町の魅力を世界に発信し、千代田の大きな資産として残す。

この1年間の活動は、4月から6月に千代田のさくらまつり、神田祭の映像を制作、景観映像素材の撮影、神田の家や靖国神社など。6月から9月は下期イベント映像制作の企画を検討。素材撮影はお堀周辺や秋葉原、丸の内周辺など。10月から12月はレギュラー化しているイベントお茶の水アートピクニック、神田カレグランプリ、東京駅ミチテラス(駅前行幸通りイルミネーションイベント)の映像制作。景観映像素材は東京駅周辺、神保町やお茶の水周辺。CIS(Chiyoda Information Station)秋葉原への映像提供。2018年には、1月から3月に来年度上期イベント映像制作の企画と撮りためた映像素材の編集。

活動での発見・感動は、映像を残す過程で、見る視点の変化。地域の催事などを一歩踏み込んで学んだ。それを外国人に伝えることを考えながら、素材選びの検討にも発展があり、

活動を続ける上でのアイディアも広がった。

また、神保町映画祭の団体と撮影協力をしていく中でつながりも増え交流が深まった。神田をワインの街にしようの会からも要請を受けたが、余裕がなく対応できなかったのが悔やまれる。今後、さらに力を入れてコラボしていきたい。

Q:見る視点が変わり、外国人の方への伝える工夫をしたとはどんなことか?

A:外国人が何を見ているのかわかった。派手なイベントより普通の街角、立ち食いそば、銭湯とか無くなりかけていることに目を向けている。自分たちの勝手な思い込みと異なる。

Q:千代田の個性とは一体何か、示唆に富んだ意見だが、対象とその発信の仕方は?

A:ウェブの開設が遅れているが、キャプションやナレーションを入れて、わかりやすくしたい。「日本風のを撮れ」と言われて困り、千代田の魅力を精査して伝えようと考えた。

Q:アーカイブ活用のヒントを頂いた。若手クリエイターと活動するとのことだが、参加した方に感想を伺いたいが何かあるか?

A:(参加者1)お茶の水の楽器店の映像を作った。段差、高低差のある町だと気づいた。

(参加者2)クリスマスの撮影では人との出会いが多く、参加できてよかった。

9 街と人とステージをつなぐ、お手伝い～人の暮らしを豊かにする～ (THEATRE CONCERTGE) (一般部門・1回目)



街と人とステージをつなぐお手伝いとして情報、企画を発信し、新しい発見を作る活動。

情報誌の発行、勉強会、カフェ公演、観劇サポート、交流会などを実施。観劇のあるライフスタイルを伝えたい。住人が劇場文化に

触れるきっかけとなる情報誌は観客の立場から劇場街の楽しみ方を紹介する。

①【ZINE】「観る人が作るステージタウン誌」を『Theatre Trip』と名付ける。自然に劇場に行く習慣で文化が身近になる生活を目指す内容。舞台の楽しさを私たちの視点で案内する情報誌を作成。最新の舞台情報だけでなく、あくまでもタウン誌を意識した。今後は、買い物や食事の情報も入れていく。

②【Instagram】「街と劇場といつものわたし」をコンセプトに劇場の街の魅力を発信。観劇の楽しみは特別な人の物ではない事を伝える。

勉強会はミュージカル作品を掘り下げ、新しい知性を磨く「ミュージカルの観方」を九段生涯学習館に提案し、授業の許可を得た。しかし、開催は実現していない。

カフェ公演は「千代田区にミュージカルと健康のある風景を。劇場に足を運ぶ時間のない方にも楽しいひと時」が目的。若手演奏家に依頼し快諾され、区内のホテルロビーでのコンサートの企

画を練っている。

観劇サポートは託児サービスの改善をし、子育て中の夫婦でも観劇しやすい環境作りを推進。助成金を充て、無料で利用してもらうよう努めた。このサービスのある企業を調査し、パンフレットを作成した。現状や存在を知ってもらうために企業にも働きかけ、さらに推進を図る。

交流会は毎月計8回、毎回10名前後の参加。作り手と観る側の立場の垣根を越えて気軽に語り合える楽しい場作りができた。入会自由な開かれたものにしていきたい。

ほかに、自分たちが楽器を持ち寄り、ミュージカル曲の演奏をするミニコンサートを実施。ミュージカルの楽しさを伝え、活動が知られ、声もかけて頂いた。チームの土台ができ、実績を重ねていきたい。

Q：情報誌は参加者以外にも配布するのか？

A：区内、劇場街、地方の劇場。参加者が増えると配布も増え500部が目標。ウェブ配信も行う。

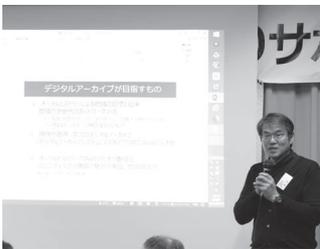
Q：劇場に関心のある街への展開はどうか？

A：同様の小さな団体も増え、自分たちらしい活動を探る。ソフト面が不足、その課題を丸の内の創業ステーションに相談している。

Q：今年度の活動は、交渉中なのか？

A：勉強会は決定、事務局に企画を提出する。

10 千代田・神田デジタルアーカイブズの構築 (一般社団法人 協働プラットフォーム) (一般部門・1回目)



この活動の特徴は、データベースを作って終わるのではなく、あくまでオーラル・ヒストリーを大事にして、勉強会やイベントの記録を動画や音声で収録する。千代田、神田について語って頂き、「千代田・神田デジタルアーカイブズ」

を構築。それをスマホのインターネット・ラジオ放送に入れて地域に流せる仕組みを作る。ダウンロードすれば誰でも番組に参画できる。

登録資料を活用した講演会、イベントはこれからだが、海老原商店で「神田市中山居の会」の活動動画や古い記録映像の上映会を開催。資料の台本を読み、講師の話や、映像を見ながらの語り合いを記録していく。

看板建築を守り、耐震基準をクリアしつつ現代に生かして未来に残そうと奮闘している海老原さんに共鳴。建物改修に関わった建築士やそれを支える地域の方々にも感動した。

また、話を聞いた方から企業の歴史や親の遺品などの貴重な品物を教えられ、ヒントになるようなコメントも伺った。アーカイブスは企業史の編纂とも連携していけるとわかり、多角的に地域ともつながる活動になったと思う。

今後は神田の住民の体験談やファミリーヒストリーを伺って記録し、神田駅周辺の歴史的変遷もデータベースにまとめる作業を進める。活動する中で、「神田情報インフォメーションセンター」の構想に発展。神田駅百周年に際し、当社も活動を本格化しようと本拠地を大田区から神田司町に移した。

入居したビルのオーナーに活動のコンセプトと今後の展望を話したところ、大変共感されて、地域の情報収集や人脈のご紹介など、さまざまなご協力を頂いている。

Q：「神田学」といった幅広い視点の取り組みに、本拠地を神田に移したほどの意気込みも感じる。今後の活用とは？

A：神田学会に入りご指導頂きながら、神田で出版をしたい人にも協力していく。

Q：個人での活動か？基盤の組織づくりはどうなっているのか？

A：地域のオープンソースでの組織、情報発信の仕組みと考えている。海老原商店と協力し、自治体OBの方からご助言も頂く。

Q：神田らしい、神田ならではの活動を望む。

A：神田だからこそやれることをやる。そのためにも神田地域の活性化の一環として、ウェブ・ラジオとの併用を考えている。

11 カンダによる、カンダのための、カイダンミュージアム

(KANDA MUSEUM) (一般部門・1回目)



内神田のシェアハウスで設計事務所をしている3人で始めたグループ。仕事柄、地域の場合に興味があり、神田で働いている事もあり、この場所で何かできないかと考え、始めたのがカンダミュージアム。このシェアオフィス

にある小さな階段下スペース、ここで神田をテーマに小規模ミュージアムの運営を行い、地域のコミュニティや活動が見えるようにするのを目的とする。

この1年間は探りながらやってきた。まず神田関連企画「SHOP100展」(年4回)で、近くにあった100円ショップの閉店を惜しんで、「売れ筋ベスト10」として開催した。地域で働く人が昼休みに来てくれた。

2回目は、「ホップアップライブ러리 Invisible Mothers展」、神田でジェンダー問題を考える試みだったが不評に終わった。地域の人とはまったく興味を示してくれず、集客はテーマにより異なると知った。アーティストが外部から来てくれて、別の発見もあった。

3回目はUR都市機構と共催する。「神田警察通り賑わい社会実験2017中間報告展」をリアルタイムで開く。今の神田の動

きを展示したが、告知不足であまり動員されなかった。再度企画を見直し、「開催報告展」として、今年4月末に予定している。

この場所にしかないオリジナルな空間が街におもしろみを出し、昼休みの5分間でもリフレッシュしてもらえたらと思う。今後も神田に根ざした場所でありたい。地域内で行われるまちづくり関連情報の集約スペース、ハブとなることを期待もされている。

Q: 小さなスペースでも地域が見える場にしたいという展示会の手応えはどうか? また課題と反省、そして今後の方向は?

A: 情報発信力が不足で工夫が必要だと知った。信頼されるには継続的、定期的に開くことが大切。そのためにもメンバーを増やすことが必要。シェアハウスのほかの団体と一緒に開くことも企画。テーマも切り口を考え、まちサポのほかのグループとのコラボもしたい。

Q: 場所があるだけでなく、いつもミュージアムに誰か人がいるのが大切ではないか? この活動でうれしかったことは何か?

A: 昨年7月のグループ展が今年6月に東京都美術館で「都美セレクトショングループ展」に応募して展示会が決まった。

Q: その「セレクトション部門」とは何か?

A: 都美術館公募に審査で選出された。カンダミュージアム展がそのきっかけになった。

12 千代田のみなさん!一緒に新しいつながりや友達作りをしませんか?私達は「ちよだ」

で住む人、働く人が、楽しく繋がるキッカケ作りをお手伝い致します。

(ちよとも) (はじめて部門)



社会福祉協議会から生まれ、千代田で友達をつくるグループ。世代を問わず、在住、在勤、通学者を対象に、ゆるく楽しむ人と人がつながる場を提供する活動。皇居を囲んで、色々な町があるが、一つの千代田と捉え、町会と別の千

代田のコミュニティを目指す。

活動拠点は社会福祉協議会のある、かがやきプラザ4階で「ワールドカフェ」を、毎月1回、合計12回実施。毎回テーマを決め、「千代田の魅力は?」などについて、テーブルごとにメンバーで話し合う。テーマ、内容について結論は出さない。他人の言葉や存在を否定せず、緩やかなルールで楽しく終わる。

これまで6回実施、区の福祉祭に出店参加。タコ焼をして「ちよとも」の勧誘をした。小川町の雪だるまフェアにも出店し、日本語ボランティア・サロンSWANと協力して雪ダルマの制作、PR活動。

共立女子大の学生と協働で小学生に千代田区を知ってもらうための「ちよだクイズ&ワールドカフェ」を実施した。

千代田区の在住者は私を入れて3名。計8名で運営。「ちよとも」の核を考えるべきとアドバイス頂き、ビジョンを明確にした。新しい形のコミュニティを作るのが使命だ。

工夫したのはチラシ。文字を読みやすくして、フェイスブックにも。アンケート用紙と申込用紙を一枚にまとめ、参加したい人が協力しやすい形にした。チラシも「番町瓦版」「まちみらい千代田広報紙」に掲載してもらった。

Q: 共立女子大とは、ほかにも協働を?

A: 「ちよだコミュニティラボライブ」で知り合った共立女子大の先生方が小学生に千代田の事を知ってもらおうパンフレットを学校内や区役所の方に配布した。例えば「千代田区に何本の橋があるか?」といったクイズ形式。正解は52本。

Q: クイズでどういったコミュニティが生まれ、何が起こるのか?

A: 千代田について知ってもらう。参加者で在住者は4割、ほかは在勤、通学者。千代田をよく知らない人は多い。多国籍の人にも知ってもらうためのいろんな引き出しを設ける。

Q: 今後ボランティア団体に進化させるとか。具体的には何をやりたいのか?

A: 新しい形のコミュニティを作る。メンバーの役割を再考し、2020年に向けて頑張る。

Q: 次の段階で活動がきちんとした形になるのか?何を応援してもらおうのか?

A: 運営メンバーや応援してくれる人の発掘がむずかしい。「ちよだコミュニティラボライブ」の中から見つけたい。

13 三崎町物語～笑顔で繋ぐ地域の輪～

(三崎町 SMILE プロジェクト) (はじめて部門)



学生を中心に結成したグループ。神田三崎町を中心に地域の理解と活性化を念頭に地域と人の架け橋となる活動。昨年度はおもに3つ。縁日など地域の既存イベントに参加、次に学生でフリーペーパーを作り、交流会を開く。

フリーペーパーには5つの項目に分けて取材、調査して掲載。三崎町の歴史も学んでいる。平成30年に神田三崎町が町名変更されると聞いて、それについて町会長にインタビューした。

9月は三崎町稲荷神社縁日に参加、お菓子のつかみどりと綿あめのブースを出店。地域の子どもたちが多数参加し、近所の人とも意見交換、交流を深めた。神田三崎町の新たな発見を目的にまち歩きを行った。皆さまにご協力いただきインタビューすることができ、お世話になった方の笑顔の写真をフリーペーパー最終ページに掲載した。

地域の方がもっと学生と交流を望んでいると知り、学生有志・企業・町会・ホテルの方たちと、三崎町の元学生達とのイベント「新発見！神田三崎町！」を開催。参加者独自の視点で三崎町の気づかれていない価値を探す。

5グループに分かれて神田三崎町について話し合う。結果を学生と社会人の視点に分けてまとめた。共通点は「グルメの町である」こと。昔は学校、学生が多く、今は企業が多くなり、昼間は人が多いが夜は少ないこと。どうしたら笑顔あふれる町になるか？参加者全体で意見を交わした。昔の雀荘や飲食店など、世代を越えて出会える場所があった。そういう場所を作れるといいと思った。

今後、新たなイベントをという提案を頂く。単なるまち歩きではなく、五感を使うまち歩きを計画。飲食店が多いので各店の仕込みの香りを楽しんで行く。カフェから協力の声がかかり、話し合う準備を進めている。

Q：地域の人たちは、まちづくりの課題をどう感じていたのか？

A：住人が減り、昔なじみの店もなくなった。町会のメンバーも減る。マンションが増えて人も増えつつあるが、町会と関わりを持たない。そんな中で、大人のイベントに子どもや学生が入ってくれたら、と期待されている。

Q：学校ごとではなく、有志のメンバーの活動では、卒業後の今後はどうつなげるのか？

A：信頼し理解し合えるメンバーを集めたい。交流会で大学の関係者とも出会い、各大学でゼミや研究会で勧誘してもらうことになった。その後、説明会をさせてもらい活動に誘う。

14 神田に残る、近代建築史の生き証人とも言える「看板建築」の代表的な事例、海老原商店を改修し、長寿命化を図るとともに、生きた活用方法を提案する。

(海老原商店を活かす会) (普請部門年度報告)



昨年度、普請部門で活動した報告と、これから2年目、3年目に向けての新たな企画と課題を申し上げます。初めての方もおられるので、改めて会の説明をします。

海老原商店は神田須田町にある看板建築の古い建物。昔は並んで

建っていたのが、今は駐車場やマンションになり、減ってきて街並みも変わった。何とかこの建物を残そうと思い、普請部門に応募しました。

当店は明治22年に古着屋として始まり、その後関東大震災で焼け、昭和3年に再建されたのが現在の建物で、今年で約90年になる。平成15年に千代田区のまちづくり重要文化財に指定され、何とか維持している。ほかにも残っている看板建築の活用の前例になればと活動している。

助成を受け、建築当時の扉や内部の建材も復元。左右に窓のない建物に特徴の天井の吹き抜けも復活させ、上から光を入れる。外見だけでなく、建物内部の造作もおもしろい。

昨年度の活動は、まず3月に斎藤陽道氏の写真展を行い、行列ができるほど盛況で、詩人の谷川俊太郎氏もご来場した。耐震補強をしておいて良かった。現在も7月まで、江戸東京建物館

で看板建築展が開催され、そこへ資料提供をし、展示している。

ほかにも広告の撮影や講演会、三味線や長唄などの教室、千代田のまち歩き活動の休憩所にもした。改修後に版画やアニメの画像にもして頂いた。今後は宿泊事業の可能性を探る。周辺の看板建築の持ち主との協働を図り、他区の古民家の活動やイベント、「谷根千」のグループとの交流も考えている。

Q：告知や情報の発信はどうしたのか？また、オーナーと活動の関係でご苦労は？

A：まちみらい千代田広報紙で告知し、イベントは土日で開催することで仕事と両立できた。講演会は夕方以降にして帰宅途中の人も参加できた。

Q：地域の住民との接点は何かあるか？

A：神田への愛着の深い小中学校の同窓会メンバーが応援し紹介してくれた。住民とは飲食店を中心に交流が始まった。

Q：トラブルや問題点はなかったか？

A：近隣に工事が多く、イベント中に騒音や振動があり、想定外だった。課題は寒さ対策だ。

Q：企画は持ち込みか？会独自のものか？

A：習い事教室は神田祭の知り合いからの持ち込み。写真展やワークショップの古民家の伝統工法(釘を使わぬ建て方など)は会の企画による。全体としては半々くらい。



一次審査を通過したが建物の建築上の安全性が課題だった。専門家の方々に耐震構造など必要な調査を依頼。その調査結果はアドバイザーの専門家にお話し頂きたい。

アドバイザー：〈建築物について

の 10 年前の耐震調査・審査結果が出てきて参考になった。その報告書に地盤沈下があり、床下の基礎が沈下、建物が傾き、基礎や柱の改修や補強のための再調査が必要とある。報告書と現場の整合性を床や天井を剥がして確認した。

その結果、床下の基礎が今後さらに沈下が進むと思われ、柱も改修がさらに必要と判明。基礎も柱も補強する。その上で事務局側のアドバイザーに再評価を依頼した。未調査の部分も補強、改修して、建物全体の安全性を図る。〉

事務局側アドバイザー：〈報告書では目標を達成、現状より悪化することはないが、未調査の部分の再調査の必要がある。その必要な補強改修をすれば安全性は担保できると判断した。〉

Q：未調査の部分の今後の施工体制をどうするか確認したい。

A：壁、床、天井等の部分を再調査し、生かせる建材は生かし、補強、改修を検討。現在の建物の安全も考え、傾斜をくい止める。

Q：現場の写真では部分的に安全性が心配。地方公共団体に準ずる法人からの助成なので建築基準法に照らし補強、改修し、その記録を報告してほしい。

A：実際の改修、補強の順序に応じて記録し、1年後に必ず報告する。

Q：オーナーの方が住んでいる中での工事は、一時移動で荷物や家具などをどうするのか？

A：オーナーの住居部分は一部で、改修部分と建物の中で分離可能だが充分配慮していく。

Q：東日本大震災で傾いたと聞いたが、液状化対策など、土壌の改良はするのか？

A：土台の石に連続した基礎工事をする。10年前に傾いたが長年の経年変化によるもので、幸い土壌や地盤そのものは悪くない。

Q：工事のプロセスも専門家だけが分かる記録ではなく、まちサポの映像のグループとも連携して、地域との交流も考えてほしい。

(審査結果)

中島会長：慎重に検討した結果、500万円を上限とする助成を決定。二次審査での課題は安全性だが、今日のご説明で納得した。建物の安全性だけでなく、万が一の時の避難方法も配慮し、さらに安全性の確保をすること。今回の耐震診断の報告書同様に工事の記録書、計画書も残すこと。専門家とも相談協力し、建物再生と活用の物語となる活動を期待している。

A：専門家のご協力で勉強もさせて頂いた。ここを活動拠点として会を運営し、安全性を保ちつつ外観も生かし保全しながら、展示やセミナー、ワークショップも計画している。

審査会委員講評

奥村副会長



皆さん、どうもありがとうございました。

本当にバラエティに富んだ活動報告だったと思っております。そのテーマの多様性が、ほかの都市ではなかなか見られないような、広がりがあったのではないかと思います。

今日、皆さんの発表を伺ってまして、こんなにいろんなグループが、今、連携して動いているのだ、ということに、ちょっとびっくりいたしました。

それは、まさにこの場がそういうきっかけをもたらしてくれたということもおありだと思いますし、いろんなテーマに、お互いが力を出し合っ、協力できる関係ができているのは、本当に素晴らしいことです。

そういう意味で、このプラットフォーム自体がいい活動をされ

ているのだと思います。

もう一つ、特徴として考えられるのは、アーカイブ系の活動が非常に多いと感じました。しかも、そのそれぞれレベルが高く、とても楽しめる中身になっていました。

そのことが、これからのまちづくりに何らかの力となって働いていってくれるだろうと、とても期待しています。もちろん、ウェブでアクセスすれば拝見することはできます。

だけど、このすばらしい人たち、すばらしい出来事が、千代田の中に、あちこちにあるということ、それをもっともっと誇りにするために、どんどんと見ることができるようになるように、期待しております。

また、今年の活動がありますので、次回、お会いするのを楽しみにしています。

どうも、ありがとうございました。

後藤委員



どうも長時間、お疲れさまでした。

1年間の活動の締めくくりと言った、今日の報告会でしたが、本当に、お疲れさまでと言いたいと思います。

今日、いろいろな発表を伺ったり、事前にアンケートや資料を読まして頂きました

が、「情報発信」をどうするか、それから、仲間が増えないとか、自分の仕事との両立で、なかなかうまく時間が取れない、といった問題点として、課題としてあったと思います。

またその反面、この助成金を得ているということで、外部に対して認知度や信用力がアップしているということが、ほとんどのグループが言っていたと思います。

そもそも、「まちづくり」というのは、役所が指導する都市計画とは違うわけですから、いろんな切り口があって当然だと思います。

その中で、自分たちだけでなく、ほかのグループとのつながりができたり、協力ができたりすることで、私は、3つの力が必要ではないかと考えました。

まず第一に「つなげる」。次に、相手に「伝える」。それから「続ける」、つまり継続です。

この3つの事を考えて、少しずつでも、一歩ずつでも前に進んで行ったら、結果的に大きなステップになるのではないかと、言う気がしています。

本当にお疲れさまでした。

朝比奈委員



皆さん、長時間お疲れさまでした。

今、堀田委員の方からもありましたが、おっしゃったとおりで、私はほかの町でも、このような活動に関わらせて頂いておりますが、多くは住んでいる方だけだと思います。

でも、千代田の場合は、住んでいる方の他にも働いている方や学んでいる学生さんも加わっていらっしゃる。それが、この千代田のまちサポの大きな特徴だと思います。

活動がすごく広がっていることが分かりましたし、中身が濃い活動が多かったと思います。そうやってきた時に、やはり、「まちサポ」の、応援する活動は何だろうと考えると、楽しく、やってよかったと思える活動を続けていけるように、それを応援するのだという事かなと私は思います。

そうすると、活動の内容だけではなくて、その活動の体制、どういう地域でやっていくのか、きちんとまわりと合意形成を図り

ながら、どうやって続けていくのか。その体制を考えることも、必要になってくると思います。

今日、活動発表途中で神田をワインの街にしようの会の皆さんにも言いましたけれども、やはり、活動が広がった後、もう一回立ち止まって、展開する活動の基盤を考えてみる。そういう時間も大切ですし、そういうところに助成金を使うこともあってよいと思います。

そういう視点で、皆さんがこれからの活動を考えていけたらいいだろうし、そこも応援していきたいと思っています。

今回の成果発表会の資料はすごく良くできていると思いました。さきほど、千代田まちづくりプラットフォームの方に伺いましたら、皆さんが、すごく練りながら、報告のポイントを抽出しようと、項目立てにも注意して作ったとのことでした。

この資料集には、大切なヒントがいっぱいありますので、また今後に生かしていくと良いのではないかと感じました。

今日は、ありがとうございました。

堀田委員



今日は皆さんの一年間の活動成果を聞かせて頂きました。今までのイメージでは、「まちづくり」と言うと、公園や橋、建物などを造るとか、空間を作っていくような事と認識をしておりました。

そのような捉え方をしていたのですが、今年から、このまちサポに参加させて頂きまして、皆さんがやっていたら、人や文化、歴史というものにスポットを当てたものが、「まちづくり」にはあるのだということを改めて認識させて頂きました。

このような、例えば古い建物を新しく生かすといった皆さんの活動が深まり、充満して広がり伝わっていくと、千代田区の良

さが日本中に、また世界中に発信していくことができるのではないかと思います。

また、こうした活動は住民の方だけでなく、在勤、通勤、通学の方など、いろいろな方たちがこんなにも千代田区の事を思い、愛情を持って、なさっているのだということも知り、感銘を受けました。

私も千代田区にある興産信用金庫に勤めて40年になりますが、皆さんを見習っていかなくてはいけないと思いました。これからは、活動の継続をされて良い結果が出るように、期待しております。

今日は、ありがとうございました。

小川委員



本日は、皆さまの発表を聞いて、大変心強く感じました。どうも、ありがとうございました。

千代田区のことを思ってくださいの方がこんなに、たくさんいらっしゃって、本当に感激しているところです。

やっぱり、むずかしいのは運営を続けていくことだろうと思います。その中でコアになる人をどうするか。どこのグループでも同じだと思いますが、集ってくれる人はたくさんいらっしゃって、興味を持ってくださる人も多いと思います。

しかし、その中から、運営に回ってもら、核になって関わってもらう人を見つけたり、育てるといってもおこがましいのですが、やはりそこが、どこでも大変難しいのかなと感じました。

ただ、千代田区の場合は、住んでいる方はもちろんですが、お勤めの方や学生さんなど、人材がたくさんいらっしゃるの、やはり、人と人の顔の見える関係を作って、地道にやっていくしかないのかと思っています。

実は、いろいろなお苦勞が多いとは思いますが、どうか続けていって頂きたいと思いました。ありがとうございます。

【全体講評】中島会長



皆さま、ほんとうにお疲れさまでした。

もう知られており、言われてもおりますように、千代田は住民だけでなく、多くの人が関わり、受け入れる包容力があります。

たくさんの企業があり、在勤の方も多く、若い学生さんも多い。また、今日の発表会

には少なかったかもしれませんが、活動には多くの外国人の方もおられ、いろんな方々が集まって活動しています。

発表を聞いていて思ったことは、皆さん、この町がおもしろくて、楽しくて活動されているのだということです。まず、自分の住んでいる所や勤めている所、学んでいる所で、それぞれの場所のことを知りたくて始めたのではないのでしょうか。そして、少しでも自分で何かできたらと思い、町について学んだりしてやっていると、そのうちにもっと自身が広い価値観を持つてくる。

実は自分たちがやっていることが、ほかの町でも学びたいというか、千代田だけでなく、ほかの町でもやったらおもしろい、あるいは、日本だけでなく、世界中でやれば良いのではないかと考えてくる。自分たちがやっている時は、自分の地域の事だけを考えていたのだけれども、いつの間にか、そんな思いが広がってきていると気がつくのです。

言ってみれば、千代田発の創造的なものが生まれてきている。始めは先人たちが作ってくれていたいろんな千代田の文化や資源を楽しんでいた。けれども、自分が実はそれに新しいことを付け加えている。そんな感じを受ける活動がありまして、それがすば

らしいことだと思いました。

千代田の事を深くやりながら、自分たちも新しい千代田を作り、さらに千代田の記録を残していく。それはすてきなことです。千代田の魅力と言うのは、やはり、ほかからも期待されているように、千代田だけでなく、ほかの町、地方、世界と、いろんな所にも通用するような、新しいものを生み出していく力。区内に籠って持っているのではなく、いろんな所へ送り出すものではないか。

そういうことにまちサポの活動はつながっている、と私は思いました。

昨年言ったかもしれませんが、このサポートの意義というのは、いくつも重なっている。最初は地域の事だったのですが、そのように広がっていると、皆さんご自身に思って頂いて良いのではないかとということです。具体的に、どの活動が、ということは申しませんが。

実は、冊子にある各グループのアンケートを読んで、気づきました。私たち審査会委員から良いアドバイスをもらったという感想はほとんどなかったと思います。私たちも、ただ活動について知りたいから質問しているだけです。

そういう意味で、私もこの発表会で、新しいまちづくりのビジョンを学ぶことができました。皆さんも、それぞれ学んで、持って帰ることができるのではないのでしょうか。

本当にお疲れさまでした。

またすぐ、次回がありますので、またお会いしましょう。

まちサポ特設ウェブサイト (<https://www.mm-chiyoda.or.jp/machisapo>)



■「サポート大賞受賞グループ紹介「神田プロレス」



なぜ神田でプロレスか？神保町のホワイトカレー店チャボの店主・根岸雅英さんと、同店のスタッフだったプロレスラー・那須晃太郎さんたちは、神田エリアで特に土日に「子どもたちが

地元で元気に体を動かして、楽しめる空間を作りたい！」という思いから「神田プロレス」を発案され、すべて入場無料のイベントとして開催してきました。平成28年からは（公財）まちみらい千代田の「千代田まちづくりサポート」の助成対象グループに選ばれています。助成を受けてからは、『神田スポーツ祭り』のイベント会場や、『神田明神奉納プロレス』で神田プロレスを開催され、多くの子どもたちが参加していました。当日はプロレスだけではなく、リング上をステージにして「ちびっこプロレス教

室」、「参加型おはなし会」などバラエティに富んだ活動を実践していました。これまでは、神田明神でイベントを開催してきましたが、場所は祭務所地下が中心で、来年3月30日には、いよいよ念願であった境内での開催が決定し、街の文化と寄り添っていただけるような活動が期待されます。



■まちづくり事業推進のため、財団の趣旨に賛同し、ご支援くださる賛助会員を募集しています。

公益財団法人まちみらい千代田 賛助会員一覧（敬称略）

2018年6月現在

【法人会員】		【個人会員】		
業種	会員名	業種	会員名	
金融	興産信用金庫	その他	ウェブリオ（株）	
	西武信用金庫 神田支店		（有）エイアイ企画	
	（株）東京都民銀行 神田支店		大塚製薬（株）東京支店	
	みずほ信託銀行（株）		KKテクノロジーズ（株）	
建築土木	（株）エコ・24		（株）弘周舎	飯塚 克治
	（株）久保工		ゴージョージャパン（株）	池 俊郎
	（株）竹中工務店		（株）こどもの館	加藤 武夫
	（株）ナカノフドー建設		（株）コンベンションリンケージ	小林 誠
建設設計	（株）楠山設計		（株）住宅あんしん保証	佐藤 直樹
	（一社）改修設計センター		鈴新（株）	瀬川 昌輝
	（株）翔設計		（株）すららネット	立山 光昭
	（一社）東京都建築士事務所協会千代田支部		瀬味証券印刷（株）	戸田 豊重
	パシフィックコンサルタンツ（株）		（株）TALO 都市企画	堀部 剛正
緑花・環境	日産緑化（株）		（一社）千代田区観光協会	三浦 博子
	（株）日昇緑化研究所		（株）ツツキ	宮園 耕二
広告代理	（株）フィレール		東洋美術印刷（株）	美輪 瑛子
不動産	エヌティティ都市開発（株）		（株）巴商会	他6名
	協永ソフトエンジニアリング（株）		（株）日精ピーアール	
	住友不動産（株）		日新火災海上保険（株）東京事業部 東京西支店	
	天翔ビルディング（株）		ノーラエンジニアリング（株）	
	プラットフォームサービス（株）		（株）バイオレンジャーズ	
	三井不動産（株）		ハネクトーン早川（株）	
	三菱地所（株）		（株）FEA	
	安田不動産（株）		（株）フォトロソ	
	東京建物（株）		富士ゼロックス（株）	
	IT 関連		（株）メディアリンク	（一社）マンション管理組合支援センター
コンサルタント	NPO 法人 都市住宅とまちづくり研究会	（株）ムレココミュニケーションズ		
	（株）パシフィック総合開発研究所	ヨシモトポール（株）		
その他	（株）i-tec24	（株）リブリッジ		
	（株）アズーム	（株）ワンスイン		
	（株）イサミヤ			

（法人：61 個人：18 計：79）